

## 東久留米市立図書館協議会による令和2年度図書館事業評価について

図書館協議会では、年度ごとに図書館事業について評価を行っています。令和元年度は、図書館における非来館型サービスへの提案やハンディキャップサービスの課題について事業評価と提案を行いました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館や制限付き開館となり、中央図書館においては大規模改修工事に伴い長期休館となりました。

図書館はすべての人に等しくひらかれた施設であり、地域の情報拠点としてさまざまな情報の中から資料や情報を収集し、整理し、検索しやすいようにして提供する役割があります。実際に図書館に足を運ぶか運ばないかに関わらず、市民の誰もが必要とする情報を得られることが重要です。

そのため、図書館では、情報にアクセスする手段の1つとして独自に図書館ホームページを作成しています。

そこで、令和2年度事業評価では、図書館がまとめた「令和2年度東久留米市立図書館ホームページの実績及び自己評価」（別紙）を受け、図書館ホームページの内容や活用方法について、図書館協議会の意見をまとめました。

### （ホームページ構成について）

- ・自己評価の中で複数のルートを用意するとあるが、逆にリンクが多くなり、欲しい情報へのアクセスがわかりづらくなる。ジャンルごとにまとめたり、優先順位をつけ、わかりやすくする工夫が必要と考える。
- ・トップページを活用し、大人のページ、子どものページ、外国語のページ等、はじめからカテゴリズする方法や、周知したい、または重要な情報の優先順位をつけて掲載するとわかりやすのではないか。
- ・スマートフォンの操作性を踏まえた構成にも留意する必要がある。パソコンやタブレットとは異なる表示になることに留意する。
- ・更新日等に留意し、常に情報の確認と更新をする必要がある。
- ・表示する情報と、ツリー式に格納する情報を整理するとよい。

### （コンテンツについて）

- ・多くの人はスマートフォンでwebサイトを見るため、モバイル用のコンテンツを用意するとよいのではないか。なお、その際、情報が欠落することがないように留意する必要がある。

- ・動画配信等も検討してはどうか。
- ・子ども読書応援団のコンテンツでは、応援団の説明はあるが、実際に興味を持った方に対する情報が掲載されていない。問い合わせ手段や応援団の現状説明等の情報を掲載してはどうか。
- ・こどもページは分かち書きにすることで見やすくなる。また、網掛け等により見やすくすることもできる。
- ・市が持っているコンテンツ（教育委員会へのリンク等）が活用できていない。
- ・コンテンツごとに掲載情報の優先順位と表示方法を検討する必要があると考える。
- ・他自治体では、市に縁のある児童文学者等へのリンクをはっている事例があり、市の独自性が感じられるよい事例だと思う。

#### （バナー広告について）

- ・自己資金の獲得手段として、バナー広告の制度があるのなら活用すべきと考える。
- ・バナー広告の募集においては、図書館ホームページのアクセス解析等を開示することで、企業等が応募する際のターゲット層（年代や地域等）に関する情報提供になると考える。

#### （活用方法について）

- ・サピエ図書館（点字図書や録音図書などの全国最大の書誌データベース）の使い方などを掲載することで、ハンディキャップのある方が自身で利用できるよくなるよいか。
- ・コロナ禍において外出が制限される中、図書館ホームページに様々なコンテンツを用意することで、利用者はweb上で楽しむことができる。
- ・現状において、市におけるコロナ関連情報へつなぐことも必要と考える。
- ・市民が持つ課題を解決するための情報やサイトへつなぐことも必要と考える。
- ・自己評価の中で今後メールレファレンスについて検討するとあるが、運用方法や利用ニーズ等を勘案し、導入コストについても留意する必要があると考える。
- ・メールレファレンスの内容をプライバシーに配慮した形で、事例紹介としてホームページ上で公開することもよいと考える。
- ・AIの活用を検討してはどうか。

令和2年度 東久留米市立図書館ホームページの実績及び自己評価

実 績	自己評価・課題
<p>(概要)</p> <p>2018年10月に図書館ホームページをリニューアルし、アクセシビリティの向上に重点を置き、色変更や文字の拡大縮小機能、多言語への対応、音声読み上げ機能等を追加するとともに、ホームページ作成時のアクセシビリティチェック機能も設けた。また、各コンテンツを整理し、より分かりやすい内容となるよう作成した。</p> <p><b>【令和2年度の取り組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年3月に子ども向けホームページのリンク集の掲載（お知らせ一覧）外出自粛により、自宅で過ごす時間が長くなる子どもたちのために、家の中でも楽しめて役に立つページを集めて掲載</li> <li>・新型コロナウイルス感染症関連情報リンク集の掲載（調べもの相談のコンテンツ内） 新型コロナウイルス感染症に関するページを集めて掲載</li> <li>・情報収集に役立つサイトの更新（調べもの相談のコンテンツ内） リニューアル当初から掲載しているサイトの内容を再度確認して更新</li> <li>・市政情報コーナー（市役所1F）及び男女推進センター（市役所2F）所蔵資料の資料データ入力及び図書館データベースへの反映【継続】</li> <li>・図書館フェス2020の開催（エア開催） 毎年実施している図書館フェスを、図書館ホームページ上で開催した。 「ひとハコ図書館めぐり」として、「本は楽しい。」をテーマにご提案いただいた「ひとハコ図書館」を掲載するとともに、これまでの「ひとハコ図書館」を開催年ごとにまとめて掲載した。また、制限付きで開館していた地区館にて、実際の「ひとハコ図書館」展示も行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎子ども向けのリンク集や新型コロナウイルス感染症関連情報リンク集を作成、掲載しているが、図書館ホームページ内において、リンク集の格納場所がわかりにくく、実際の利用に繋がっていない可能性がある。今後は、さまざまなアプローチから情報を探し出せるような複数のルートを用意する必要がある。</li> <li>◎掲載情報の検証と情報の更新は常に行う必要がある。</li> <li>◎市民が必要としている情報を把握し、情報面で支援する必要があるが、現状行っている情報提供の内容の検証と実際の利用者の使い勝手や内容への要望を把握する方策を検討する必要がある。</li> <li>◎新型コロナウイルスにより日常生活が制限される中で、インターネット上での非来館型のサービスとして、読書活動への支援（新刊本紹介や蔵書紹介、パスファインダーの充実等）やインターネット上でのイベント開催などを検討する。</li> <li>◎インターネット上での双方向のサービス提供として、メールでのレファレンスを検討する。</li> <li>◎利用者の情報リテラシーの向上への支援として、情報発信や著作権における情報リテラシーの育成について事業展開し、web上での公開やコンテンツの充実を図る。</li> <li>◎司書のスキル向上とコンテンツ作成のスキルを持った人材を育成する必要がある。</li> </ul>